

第七十五宗議會 宗務総長挨拶

宗務総長 増 田 修 誠

慈光照護のもと、ご寺院住職、皆さまにおかれましては、益々ご法耕にお励みのことと拝察申し上げます。

先般、常磐井まや お裏方様が令和四年三月二十七日にご逝去され、仮通夜 密葬 本通夜 本葬儀式に際しましては、皆さまのご協力のもと、ご会葬をいただき厳修させていただきました事、衷心より謹んでお礼を申し上げます。

お裏方様は、一九九五年五月二十七日に専修寺にご入寺されて以来、二十七年にわたり法主殿を献身的にお支えになられ、生前中はなとも親しくお話しをされ、皆さまからとても慕われたお方であられました事は申すまでもありません。お裏方様のご功績を偲び、この悲しみを尊いご縁といただき、念仏のみ教えを次世代へ相続させていただくご教示として宗門の発展に力を尽くして参りたいと思えます。

さて、私共が今まで経験したことのない、新型コロナウイルス感染症が日々の生活に暗い影を落とし、緊急事態宣言、不要不急の外出自粛等々、高田寺院・檀信徒の皆さまには、仏事、法会に様々な配慮や苦渋の決断をされておられることと存じます。

本山におきましても、感染症拡大防止のため、皆さまに安心・安全に参拝いただけますよう感染対策に万全を期して対策を講じておりますが、感染状況を見極めての本山行事、法会執行には、日時、内容の変更に伴う不便をかけての状況であります。皆さまのご理解ご協力により、各法会・行事を遂行させていただいております。

各高田派ご寺院皆さまには「本山からのお知らせ」案内メールの最新情報配信を進め、各法会・行事・研修会等のYouTube映像配信を行っているところであります。本年中には、本山映像配信を充実すべく、各別院と連携を進め、受信設備の設置を図り、「特別法要」へ参拝いただく大切なご縁を結ぶ映像配信へ、更に、各ご寺院後継者皆さまの研修講座発信へと、つなげてまいりたいと思ひます。

念仏高田の法灯を絶やすことなく、今こそ地域に寄り添い、助け合い、人と人との「つながり」ご縁を築いて下さった先達の思い・願いをしっかりと受け止め、「幼児・子ども・若者へのご縁づくり」「父母・祖父母・ミドルエイジへの勝縁づくり」へと明日を担う後継者皆さまと共に、たゆまぬ研鑽を進めて参りたいと思ひます。本山・各別院・高田寺院が一層の連携を図り、来る二〇二三年五月にお迎える『特別法要』『開山親鸞聖人御誕生八百五十年奉讃法会・立教開宗八百年・中興真慧上人五百年忌・聖徳太子千四百年忌』、二度とないご勝縁に向けて、一人でも多くの檀信徒皆さまと共に念仏を唱和する感謝の法会へ、『親鸞聖人のみ教えに出会う宝物館』建設事業の円成にむけて、皆さまには重ねてご支援ご協力を賜われますよう謹んでお願い申し上げます。

宗 達

宗 達 第一一七二号

真宗高田派宗制七十九条第二項により令和四年五月二十五日第一七五宗議會を召集せらる

令和四年四月二十八日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 告

宗 告 第一一三四号

来る令和四年八月一日より同五日まで第九十六回佛教文化講座を開講する

令和四年六月二日

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠
総 務 中 僧 都 藤 谷 知 良
総 務 律 師 弓 削 弘 胤

宗 告 第一一三五号

来る令和四年八月十四日より同十六日まで歓喜会執行相成る

令和四年六月二日

宗務総長	大僧都	増田修誠
総務	中僧都	藤谷知良
総務	律師	弓削弘胤

任 免

令和四年三月三十一日

依請解其職

専修寺総代

若櫻木清孝

全

永 滋雄

真宗高田派檀信徒議會議員

宮崎 由至

迎接寺住職 少僧都

花山 光瑞

玉保院檀信徒

岩崎 克彦

令和四年四月一日

補 専修寺総代

真宗高田派宗議會議員

今橋 勝信

令和四年四月二十九日

真宗高田派宗議會議員

中川 和則

依請解其職

財務部財務課課長

鬼頭 伸子

真宗高田派檀信徒議會議員

下津 和文

令和四年四月三十日

財務部財務課課長を命ずる

財務部財務課課長補佐

録事

玉野

章法

令和四年五月二日

第百七十五宗議会議書記を命ずる

録事

塩崎

慶信

録事

小谷

正信

第百七十五宗議会議説明委員を命ずる

共済会事務局

梅林

清香

顧問会計士

山中

利之

第百七十五宗議会議説明委員を命ずる

宝物館館長

大野

照文

特別法要事務局局長

押小路蓮円

特別法要事務局次長

久野 俊彦

庶務部部長

多賀 孝顕

教学課課長

藤澤 真樹

財務課課長

玉野 章法

第百七十五宗議会議宗務委員を命ずる

監正局長

佐藤 唯信

高田学苑長

高臣 亮雄

高田幼稚園園長

佐藤 弘道

光寿園園長

藤井 智雄

慈光院院長

高林 光暁

高田会館支配人

磯谷 優

令和四年五月十六日

第百七十五宗議会議宗務委員を命ずる

関東別院輪番

櫻木谷勝道

組長交代

令和四年三月二十七日

依請解其職

三重第十九組乙部組長

水野 顕明

三重第十九組乙部組長を命ずる 万福寺住職

佐藤 了念

教会主管者拜命

令和三年九月三十日

三重県桑名市南寺町

三重県桑名市大字赤須賀

補 赤須賀教会主管者

常信寺住職

村井 博陸

任 任 任 任 任
教 教 教 教 教
師 師 師 師 師

信行寺衆徒
勝久寺衆徒
林柔寺衆徒
柴田 貴響
水野 岳瑠
栄真寺衆徒
在田 直道

波多野俊教
柴田 英純
柴田 貴響
水野 岳瑠
在田 直道

依請解其職

赤須賀教会主管者

法山 妙珠

令和四年五月五日

僧 階

教 師

令和四年五月五日

任 任 任 任 任 任 任
教 教 教 教 教 教 教
師 師 師 師 師 師 師

圓光寺衆徒
法性寺衆徒
西光寺衆徒
光善寺衆徒
常照寺衆徒
本泉寺衆徒
聖眼寺衆徒

義村 光昌
竹野 願海
松山 顯悠
杉本 秀豊
亮 弘徳
山口 妙亮
今橋 志聞

授 授 授 授 授 授 授 授 授 授
律 律 律 律 律 律 律 律 律 律
師 師 師 師 師 師 師 師 師 師

義村 光昌
竹野 願海
松山 顯悠
杉本 秀豊
亮 弘徳
山口 妙亮
今橋 志聞
波多野俊教
柴田 英純
柴田 貴響
水野 岳瑠
在田 直道

学階

令和四年五月五日

授証義

授助教

授助教

松山 顯悠

土岐 妙裕

谷口 妙翠

褒賞

令和四年五月二十一日

本山褒賞

大仙寺住職

神戸別院

神戸別院

北海道別院

松蔭 聞昭

加藤 照代

小林 弘夫

八十嶋 哲

身分堂班

令和四年五月十九日

列其身一代堂班

老分一等

院家二等、院家一等

院家首席二等、院家首席一等

准上座格三等

蓮性寺衆徒

實義 徳真

祖師寿章

寿福寺住職

上品寺住職

本照寺前住職

西光寺前住職

専光寺衆徒

妙雲寺衆徒

本多 正澄

松山 敏彦

安部 信清

山本 瑞光

池田 妙清

藤 妙祥

本山表彰

西生寺住職

誓昌院住職

高山寺住職

妙法寺住職

西藏寺住職

齋藤 妙慧

梅林 正温

采翠 昭道

井上 義正

稲垣 泰寛

布教任命

第二十三世堯祺上人御正当

浄圓寺住職
栄教寺住職
蓮光寺前住職
光現寺前住職
西岸寺副住職
成泉寺衆徒
明通寺坊守
西蓮寺坊守
善性寺坊守
正源寺坊守
慈光寺前坊守
深正寺前坊守
心覚寺前坊守
養元寺前坊守
正圓寺前坊守
真浄寺前坊守

蓮谷 慧眼
渡辺 聖亜
南部 秀幸
北畠 舜諒
山北 円照
中尾 啓光
佐波まゆみ
藤原 素子
藤喜 通子
加藤ゆかり
藤山 マミ
春日部眞澄
星合 珠子
高島 信子
高志 美和
日下 文枝

大雲寺住職
西光寺住職
信行寺住職

水野 顕明
田仲 巖紀
波刃野俊香

五月御影堂常在説教(晨朝)

お待ち受け法会
日中

親鸞聖人降誕会
日中

権大僧都

権大僧都

権大僧都

律 師

権中僧都

権中僧都

権少僧都

律 師

藤浦 弘導
千草 篤昭
水谷 忍英
隆 妙灘
浦井 宗司

山中 久行
中村 宜成
田中 明誠
真置 信海
若林 妙百

住職在職五十年
(裏頭授与)

五・六	權中僧都	中村	宜成	五・三一	少僧都	上田	英典
五・九	權中僧都	里榮	秀教	五月御影堂常在説教(逮夜・日中)	少僧都	青木	妙法
五・一〇	少僧都	山中	真諭	五・九	逮夜	律師	北畠
五・一一	律師	古芝	智泉	五・一〇	日中	權少僧都	高藤
五・一二	少僧都	岡	知道	五・一五	逮夜	權少僧都	高藤
五・一三	權中僧都	藤田	正知	五・一六	日中	權少僧都	高藤
五・一四	律師	隆	妙灑				
五・一五	權少僧都	真置	信海	六月御影堂常在説教(晨朝)			
五・一六	少僧都	山中	真諭	六・一	權中僧都	里榮	秀教
五・一七	少僧都	藤澤	真樹	六・二	權大僧都	戸田	采信
五・一八	中僧都	青木	義成	六・三	律師	隆	妙灑
五・一九	權中僧都	安藤	章仁	六・四	大律師	北畠	大道
五・二〇	中僧都	佐藤	弘道	六・五	權少僧都	真置	信海
五・二一	律師	田中	唯聰	六・六	律師	若林	妙百
五・二二	大律師	北畠	大道	六・七	權中僧都	中村	宜成
五・二三	權中僧都	村上	英俊	六・八	權中僧都	藤田	正知
五・二四	權中僧都	鷺山	了悟	六・九	少僧都	岡	知道
五・二五	權中僧都	生桑	崇等	六・一〇	權中僧都	田中	明誠
五・二六、二七	權大僧都	浦井	宗司	六・一一	中僧都	青木	義成
五・二八	權中僧都	田中	明誠	六・一二	中僧都	戸田	惠信
五・二九	大律師	高島	光憲	六・一三	少僧都	青木	妙法
五・三〇	中僧都	青木	義成	六・一四	權中僧都	鷺山	了悟

六・一五	權少僧都	真置	信海
六・一六	權中僧都	田中	明誠
六・一七	權中僧都	安藤	章仁
六・一八	律師	隆	妙灑
六・一九	大律師	高島	光憲
六・二〇	律師	北畠	心淳
六・二一	少僧都	上田	英典
六・二二	律師	古芝	智泉
六・二三			
六・二四	中僧都	青木	義成
六・二五	律師	田中	唯聰
六・二六、二七	權大僧都	浦井	宗司
六・二八	少僧都	山中	真論
六・二九	律師	水沼	碧水
六・三〇	中僧都	佐藤	弘道

六月御影堂常在説教(日中)

六・七	速夜	律師	龍池	宏昭
六・八	日中	權少僧都	高藤	英光
六・九	速夜	權少僧都	高藤	英光
六・一〇	日中	律師	水谷	忍英
六・一五	速夜	少僧都	山中	真論

六・一六 日中

高田慈光院 月例法会

五・一〇、一六、二六

六・一〇、一六、二六

報徳園 月例法会

五・一五

六・一五

權中僧都 藤浦 弘導

少僧都 山中 真論

權中僧都 田中 明誠

權中僧都 田中 明誠

少僧都 山中 真論



敬 弔

次の方々が御往生なさいました。謹んで敬弔の意を表します。

令和四年

一・三十一

三重県鈴鹿市林崎

照榮寺住職

高崎 瑞禎

贈 大律師

四・二十八

三重県亀山市和田町

幸福寺住職

大乘 郷照

贈 少僧都

二・九

福井県福井市折立町

西生寺前坊守

橋本 森枝

贈 大律師

五・十二

三重県津市大里川北町

久善寺前住職

工藤 正英

三・十四

津市安濃町清水

勝鬘寺坊守

武田志げ美

五・二十三

三重県四日市市六名町

光輪寺前住職

中村 宜興

三・十六

三重県松阪市中町

常念寺前坊守

小妻 宏子

贈 少僧都

四・十五

福井県福井市西天田町

正行寺前坊守

佐々木準子

四・二十八

三重県津市白山町佐田

常照寺前住職

藤高 靜照

第175 宗議会報告

去る5月25日～27日の3日間新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し第175宗議会を高田会館ホールにて開催した。

25日午前9時より運営委員会が開催され、議会を円滑に運営するために日程及び議事進行の配分が行われた。

議員は午前9時30分議場となった高田会館ホールに集合し、先に行われた第174臨時宗議会で出来なかった、改選後の議員集合写真撮影を御影堂前にて行い両御堂に参拝し勤行を行った。後に議長・副議長が法主殿の元へ開会の挨拶に伺った。

議場に議員全員が再集合し勤行を行った後、議場において法主殿のお言葉を拝した。

本議会は10時30分に開会され、進行された。

3日目冒頭には、議場において常磐井顯慧殿より法嗣就任のお言葉を拝し、本議会が再開された。

承認事項は、質疑応答の議論が活発に行われ、2案件ともに、満場一致の賛成にて承認された。

上程された議案第1号～第7号についても慎重審議の後、満場一致の賛成にて可決された。

議会は平等院殿様の月次であったこともあり、最終日を10時35分に閉会し全ての日程を終えた。

閉会後は建設中である宝物館の現地視察を行い、現場監督からの工事進捗状況などの報告を受け、解散した。

提出され可決された議案、承認事項及び報告事項は次のとおりである。

第175 宗議会議案

- 議案第1号 令和4年度 真宗高田派歳入歳出予算
 議案第2号 令和4年度 専修寺歳入歳出予算
 議案第3号 令和4年度 特別法要歳入歳出予算
 議案第4号 令和4年度 真宗高田派共済会歳入歳出予算
 議案第5号 令和4年度 高田派法主褒賞特別会計歳入歳出予算
 議案第6号 令和4年度 専修寺聖教保存修理特別会計歳入歳出予算
 議案第7号 令和3年度 専修寺歳入歳出補正予算

- 承認事項1 専修学園（高田幼稚園）との土地・建物賃貸契約更新について
 承認事項2 関東別院土地売却の方向について

- 報告事項1 法嗣殿御就任について
 報告事項2 平等院殿御葬儀等について
 報告事項3 特別法要について
 報告事項4 宝物館建設進捗状況について

上記のとおり提出します。

令和4年5月25日

宗務総長 大僧都 増田修誠
 総務 中僧都 藤谷知良
 総務 律師 弓削弘胤

議案第1号

令和4年度 高田派歳入歳出予算

自 4.6.1
至 5.5.31
(単位 円)

歳入の部

科	目	4年度予算額	3年度予算額	元年度決算額	3年度決算見込額
1.	宗 教 活 動 収 入	[124,149,000]	[117,200,000]	[124,237,722]	[119,171,949]
1.	冥 加 金	(13,250,000)	(11,800,000)	(12,245,750)	(14,674,000)
1.	僧 侶 冥 加 金	5,920,000	5,800,000	5,785,750	5,822,000
2.	そ の 他 冥 加 金	1,570,000	1,000,000	924,000	1,673,000
3.	礼 録 金	5,760,000	5,000,000	5,536,000	7,179,000
2.	懇 志 金	(19,090,000)	(17,000,000)	(21,774,392)	(15,663,379)
1.	報 恩 講 懇 志 金	12,570,000	13,500,000	13,526,459	10,997,769
2.	報 恩 講 賽 銭	2,220,000	1,500,000	3,283,533	1,274,810
3.	諸 法 要 懇 志 金	3,500,000	1,500,000	2,578,000	3,086,000
4.	団 参 懇 志 金	800,000	500,000	2,386,400	304,800
3.	義 納 金	(81,109,000)	(80,400,000)	(80,475,750)	(80,249,250)
1.	寺 院 賦 課 金	80,439,000	80,000,000	79,323,250	79,058,500

2. 過年度収入	670,000	400,000	1,152,500	1,190,750
4. 刊行物収入	(10,700,000)	(8,000,000)	(9,741,830)	(8,585,320)
1. 刊行物収入	10,700,000	8,000,000	9,741,830	8,585,320
2. 資産管理収入	[300,000]	[300,000]	[1,725,470]	[271,875]
1. 資産運用収入	(300,000)	(300,000)	(1,725,470)	(271,875)
1. 諸利子	300,000	300,000	1,725,470	271,875
3. 雑収入	[13,350,000]	[8,000,000]	[15,226,221]	[11,945,000]
1. 雑収入 (課税)	(5,450,000)	()	()	(5,285,000)
1. 広告掲載料	640,000			640,000
2. 会館等使用料	3,600,000			3,600,000
3. 自販機手数料	120,000			105,000
4. その他課税収入	700,000			550,000
5. 宗報広告掲載料	390,000			390,000
1. 雑収入 (非課税)	(7,900,000)	()	()	(6,660,000)
1. 宗報購読料	700,000			680,000
2. 懇志、御礼等	2,100,000			2,100,000

3. 参拝記念印代	5,000,000			3,800,000
4. その他非課税収入	100,000			80,000
4. 特定預金取崩収入	[45,000,000]	[0]	[140,000,000]	[0]
1. 引当金取崩収入	(45,000,000)	(0)	(140,000,000)	(0)
1. 引当金取崩収入	45,000,000	0	140,000,000	0
5. 繰入金収入	[1,000,000]	[1,000,000]	[441,365,670]	[1,000,000]
1. 繰入金収入	(1,000,000)	(1,000,000)	(441,365,670)	(1,000,000)
1. 専修寺回金	1,000,000	1,000,000	441,365,670	1,000,000
6. 前年度繰越収支差額	[13,685,426]	[56,000,000]	[26,644,257]	[39,233,749]
1. 前年度繰越収支差額	(13,685,426)	(56,000,000)	(26,644,257)	(39,233,749)
1. 前年度繰越収支差額	13,685,426	56,000,000	26,644,257	39,233,749
合 計	197,484,426	182,500,000	749,199,340	171,622,573

歳出の部

科 目	4年度予算額	3年度予算額	元年度決算額	3年度決算見込額
1. 宗 教 活 動 支 出	[132,738,000]	[113,140,000]	[121,460,242]	[99,748,572]
1. 宗 教 活 動 費	(78,936,000)	(68,700,000)	(72,230,059)	(60,106,849)
1. 報 恩 講 費	16,528,000	15,000,000	19,933,253	14,176,171
2. 諸 法 会 費	3,220,000	2,500,000	2,303,731	2,795,351
3. 講 社 補 助 費	5,300,000	6,000,000	5,102,492	5,359,000
4. 旅 費	1,440,000	1,000,000	3,241,934	1,178,928
5. 扱 費	412,000	500,000	349,334	422,763
6. 宗 務 総 長 交 際 費	600,000	800,000	302,914	316,934
7. 山 内 清 掃 費	2,268,000	2,000,000	2,055,631	1,997,362
8. 諸 会 議 費	2,705,000	2,000,000	2,515,478	747,330
9. 事 務 費	1,800,000	1,900,000	1,990,000	1,782,000
10. 褒 賞 費	1,200,000	1,400,000	1,389,014	700,000
11. 団 参 扱 費	440,000	1,200,000	1,388,334	337,239
12. 広 報 事 業 費	18,000,000	20,000,000	22,014,038	16,977,506

13. 調 度 費	200,000	400,000	208,725	116,600
14. 出 版 費	1,350,000	2,000,000	1,935,420	1,115,450
15. 負 担 金	1,000,000	1,000,000	869,000	805,200
16. 修 繕 費	16,450,000	6,000,000	1,702,231	5,906,250
17. 刊 行 物 購 入 費	5,850,000	5,000,000	4,928,530	5,372,765
18. 教 育 研 究 費	173,000	0	0	0
2. 宗 議 会 費	(3,665,000)	(3,960,000)	(3,351,225)	(3,861,130)
1. 議 員 手 当 旅 費	2,500,000	2,800,000	2,432,800	2,775,620
2. 議 長 交 際 費	200,000	190,000	120,000	160,000
3. 議 会 事 務 局 費	200,000	190,000	142,740	178,510
4. 議 会 運 營 費	765,000	780,000	655,685	747,000
3. 監 正 局 費	(270,000)	(380,000)	(293,457)	(4,360)
1. 監 正 局 会 議 費	180,000	290,000	293,457	4,360
2. 監 正 局 長 交 際 費	90,000	90,000	0	0
4. 教 学 費	(18,705,000)	(10,400,000)	(14,562,810)	(9,001,774)
1. 教 学 研 究 費	930,000	1,000,000	1,064,618	150,394

2. 教 学 布 教 費	4,415,000	3,500,000	4,352,567	3,219,505
3. 出 版 広 報 費	4,000,000	2,600,000	2,107,261	2,602,876
4. 教 学 各 種 団 体 費	2,200,000	1,800,000	2,200,994	1,896,000
5. 婦 人 坊 守 教 化 費	1,340,000	1,000,000	2,714,469	672,260
6. 青 少 年 教 化 費	3,920,000	300,000	1,483,773	177,099
7. 檀 信 徒 教 化 費	1,900,000	200,000	639,128	283,640
5. 教 学 院 運 营 費	(5,050,000)	(6,050,000)	(5,073,954)	(4,481,591)
1. 教 学 院 研 究 費	1,500,000	2,000,000	1,533,598	1,390,080
2. 調 度 費	250,000	250,000	207,536	180,335
3. 諸 会 議 費	3,300,000	3,800,000	3,332,820	2,911,176
6. 補 助 金 支 出	(12,800,000)	(9,800,000)	(12,800,000)	(9,800,000)
1. 高 田 学 苑 補 助 金	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
2. 高 田 幼 稚 園 補 助 金	700,000	700,000	700,000	700,000
3. 本 寺 崇 敬 費	8,000,000	5,000,000	8,000,000	5,000,000
4. 高 田 会 館 補 助 金	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000
7. 管 理 費	(11,860,000)	(12,000,000)	(11,696,437)	(11,095,768)

1. 消耗品費	2,285,000	1,700,000	2,090,927	1,938,192
2. リース料	100,000	100,000	87,780	752,400
3. 通信印刷費	2,700,000	4,000,000	2,497,398	2,733,170
4. 水道光熱管理費	5,875,000	5,300,000	4,668,018	4,700,000
5. 諸雑費	900,000	900,000	2,352,314	972,006
8. 公租公課	(1,452,000)	(1,850,000)	(1,452,300)	(1,397,100)
1. 法人税	72,000	100,000	72,000	72,000
2. 消費税	360,000	500,000	357,900	336,200
3. 固定資産税	1,020,000	1,250,000	1,022,400	988,900
2. 人件費	[57,978,000]	[59,000,000]	[55,937,752]	[57,188,575]
1. 給料手当	(57,978,000)	(59,000,000)	(55,937,752)	(57,188,575)
1. 諸給与	47,000,000	49,000,000	46,230,640	47,039,458
2. 日直宿直費	1,000,000	1,000,000	974,834	866,550
3. 通勤補助費	1,500,000	1,500,000	1,317,433	1,446,081
4. 福利厚生費	8,478,000	7,500,000	7,414,845	7,836,486
3. 繰入金支出	[1,000,000]	[1,000,000]	[1,000,000]	[1,000,000]

1. 繰入金支出	(1,000,000)	(1,000,000)	(1,000,000)	(1,000,000)
1. 高田派共済会回金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
4. 資産取得支出	[4,000,000]	[1,000,000]	[244,200]	[0]
1. 備品取得支出	(4,000,000)	(1,000,000)	(244,200)	(0)
1. 備品取得支出	4,000,000	1,000,000	244,200	0
5. 特定資産繰入支出	[0]	[0]	[540,631,903]	[0]
1. 特定資産繰入支出	(0)	(0)	(540,631,903)	(0)
1. 繰入支出	0	0	540,365,670	0
2. 退職給与引当	0	0	266,233	0
6. 予備費	[1,000,000]	[3,000,000]	[0]	[0]
1. 予備費	(1,000,000)	(3,000,000)	(0)	(0)
1. 予備費	1,000,000	3,000,000	0	0
7. 次年度繰越収支差額	[768,426]	[5,360,000]	[29,925,243]	[13,685,426]
1. 次年度繰越収支差額	(768,426)	(5,360,000)	(29,925,243)	(13,685,426)
合 計	197,484,426	182,500,000	749,199,340	171,622,573

議案第2号

令和4年度 専修寺歳入歳出予算

自 4.6.1
至 5.5.31
(単位 円)

歳入の部

科	目	4年度予算額	3年度予算額	元年度決算額	3年度決算見込額
1.	宗教活動収入	[252,140,000]	[235,650,000]	[239,083,414]	[232,088,372]
1.	諸進納金	(88,800,000)	(78,000,000)	(85,271,514)	(80,014,247)
1.	進納所冥加金	3,000,000	3,000,000	1,935,300	2,702,300
2.	申物冥加金	78,000,000	70,000,000	75,016,900	71,995,900
3.	賽銭	7,000,000	5,000,000	6,188,814	5,316,047
4.	特別懇志金	400,000	0	2,130,500	0
5.	御染筆冥加金	400,000	0	0	0
2.	納骨堂冥加金	(159,790,000)	(154,100,000)	(150,712,900)	(148,939,125)
1.	浄華台冥加金	57,000,000	50,000,000	49,266,500	56,207,000
2.	納骨堂加入冥加金	14,000,000	14,000,000	13,107,000	12,510,000
3.	納骨壇移転冥加金	570,000	100,000	100,000	820,000
4.	納骨壇永年管理冥加金	5,000,000	6,000,000	6,510,000	2,500,000

5. 懇志金	5,220,000	5,000,000	4,922,400	2,850,000
6. 恭敬冥加金	78,000,000	79,000,000	76,807,000	74,052,125
3. 墓地冥加金	(3,550,000)	(3,550,000)	(3,099,000)	(3,135,000)
1. 墓地管理冥加金	3,500,000	3,500,000	3,081,000	3,126,000
2. その他冥加金	50,000	50,000	18,000	9,000
2. 資産管理収入	[420,000]	[400,000]	[512,308]	[409,269]
1. 資産運用収入	(420,000)	(400,000)	(512,308)	(409,269)
1. 諸利子	420,000	400,000	512,308	409,269
3. 雑収入	[5,700,000]	[3,000,000]	[8,386,468]	[7,395,566]
1. 雑収入	(3,200,000)	(1,500,000)	(7,006,468)	(5,195,566)
1. 雑収入	3,000,000	1,500,000	6,818,888	3,028,766
2. 懇志金その他非課税収入	200,000	0	187,580	2,166,800
2. 収益事業収入	(2,500,000)	(1,500,000)	(1,380,000)	(2,200,000)
1. 蓮の会年会費	2,500,000	1,500,000	1,380,000	2,200,000
4. 特定資産取崩収入	[44,878,000]	[17,000,000]	[470,001,027]	[17,091,344]
1. 特定資産取崩収入	(44,878,000)	(17,000,000)	(470,001,027)	(17,091,344)

1. 引当金取崩収入	(44,878,000)	17,000,000	470,001,027	(17,091,344)
5. 前年度繰越収支差額	[12,132,620]	[53,000,000]	[56,513,428]	[26,509,423]
合 計	315,270,620	309,050,000	774,496,645	283,493,974

歳出の部

科 目	4 年 度 予 算 額	3 年 度 予 算 額	元 年 度 決 算 額	3 年 度 決 算 見 込 額
1. 宗 教 活 動 支 出	[171,502,000]	[149,100,000]	[174,815,173]	[132,726,215]
1. 門 室 費	(28,487,000)	(28,000,000)	(26,852,592)	(27,361,556)
1. 門 室 費	28,487,000	28,000,000	26,852,592	27,361,556
2. 維 持 費	(23,007,000)	(23,400,000)	(59,622,867)	(19,852,128)
1. 護 持 費	7,177,000	7,000,000	5,807,193	7,045,000
2. 恭 敬 費	1,289,000	1,500,000	1,273,818	1,534,128
3. 定専上人・堯真上人年忌法会	0	0	1,981,801	0
4. 事 務 費	3,871,000	4,000,000	3,904,000	3,897,000
5. 扱 待 遇 費	2,006,000	1,500,000	1,538,166	1,647,500
6. 団 参 清 掃 費	0	400,000	328,723	0
7. 協 賛 費	900,000	1,000,000	902,900	579,000
8. 申 物 購 入 費	5,028,000	4,000,000	3,806,486	4,290,400
9. 調 度 費	594,000	2,000,000	2,040,840	157,600
10. 文 化 財 保 存 費	1,142,000	2,000,000	38,038,940	701,500

11. 平等院殿一周忌法要	1,000,000	0	0	0
3. 管 理 費	(97,764,000)	(75,100,000)	(67,281,385)	(65,396,659)
1. 自 動 車 諸 費	1,664,000	1,000,000	520,854	1,000,000
2. 水 道 光 熱 管 理 費	15,161,000	12,000,000	10,954,238	12,000,000
3. 緑 化 管 理 費	3,500,000	3,500,000	3,347,084	4,990,793
4. 通 信 印 刷 費	5,047,000	5,000,000	5,453,570	5,217,445
5. 諸 消 耗 品 費	2,000,000	2,000,000	1,735,665	2,500,000
6. リ ー ス 料	150,000	500,000	290,088	147,708
7. 損 害 保 険 料	3,000,000	3,500,000	3,803,580	3,260,790
8. 土 地 借 用 料	900,000	800,000	800,000	800,000
9. 公 租 公 課	770,000	1,300,000	1,296,000	300,600
10. 警 備 費	4,279,000	4,000,000	3,218,504	4,279,140
11. 雑 費	1,000,000	1,500,000	2,590,059	1,204,253
12. 防 火 設 備 費	4,693,000	5,000,000	4,974,248	4,695,930
13. 営 繕 補 修 費	55,600,000	35,000,000	28,297,495	25,000,000
4. 納 骨 堂 費	(6,280,000)	(6,800,000)	(6,614,226)	(5,324,392)

1. 法 会 費	3,880,000	3,800,000	3,559,246	2,806,950
2. 記 念 品 費	650,000	1,500,000	1,288,800	633,600
3. 納 骨 堂 清 掃 費	1,750,000	1,500,000	1,766,180	1,883,842
5. 墓 地 費	(2,264,000)	(2,100,000)	(510,103)	(1,291,480)
1. 維 持 管 理 費	2,164,000	2,000,000	509,000	1,290,480
2. 諸 雜 費	100,000	100,000	1,103	1,000
6. 交 付 金	(13,700,000)	(13,700,000)	(13,934,000)	(13,500,000)
1. 院 号 交 付 金	13,000,000	13,000,000	13,284,000	12,750,000
2. 納 骨 壇 加 入 交 付 金	700,000	700,000	650,000	750,000
2. 人 件 費	[140,287,000]	[144,100,000]	[136,656,719]	[133,953,279]
1. 給 料 手 当	(140,287,000)	(144,100,000)	(136,656,719)	(133,953,279)
1. 諸 給 与	115,000,000	117,000,000	110,314,300	109,758,736
2. 備 人 費	600,000	1,500,000	1,495,555	513,270
3. 日 直 宿 直 費	2,200,000	2,200,000	2,274,614	2,021,950
4. 通 勤 補 助 費	3,400,000	3,400,000	3,074,191	3,374,189
5. 福 利 厚 生 費	19,087,000	20,000,000	18,743,289	18,285,134

6. 退職手当	0	0	754,770	762,000
3. 繰入金支出	[1,720,000]	[7,923,210]	[441,365,670]	[4,681,860]
1. 繰入金支出	(1,000,000)	(1,000,000)	(441,365,670)	(1,000,000)
1. 高田派回金	1,000,000	1,000,000	441,365,670	1,000,000
2. 特別会計繰入金支出	(720,000)	(6,923,210)	(0)	(3,681,860)
1. 専修寺聖教特会繰入金支出	720,000	1,127,210	0	719,580
2. 防火設備工事特会繰入金支出	0	5,796,000	0	2,962,280
4. 資産取得支出	[180,000]	[4,000,000]	[21,037,872]	[0]
1. 構築物取得支出	(0)	(0)	(19,700,000)	(0)
1. 構築物取得支出	0	0	19,700,000	0
2. 備品取得支出	(180,000)	(4,000,000)	(1,337,872)	(0)
1. 備品取得支出	180,000	3,000,000	1,088,392	0
2. ソフトウェア取得支出	0	1,000,000	249,480	0
5. 特定資産繰入支出	[0]	[0]	[621,211]	[0]
1. 特定資産支出	(0)	(0)	(621,211)	(0)
1. 退職給与引当預金支出	0	0	621,211	0

6. 予備費	[1,000,000]	[3,000,000]	[0]	[0]
予備費	(1,000,000)	(3,000,000)	(0)	(0)
予備費	1,000,000	3,000,000	0	0
7. 次年度繰越収支差額	[581,620]	[926,790]	[0]	[12,132,620]
次年度繰越収支差額	(581,620)	(926,790)	(0)	(12,132,620)
合計	315,270,620	309,050,000	774,496,645	283,493,974

議案第3号

令和4年度 特別法要歳入歳出予算

自 4.6.1
至 5.5.31
(単位 円)

歳入の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	3年度決算見込	備 考
1. 宗 教 活 動 収 入	[536,000,000]	[403,500,000]	[211,800,000]	
1. 寄 付 金 収 入	(536,000,000)	(353,500,000)	(211,800,000)	
1. 寺 院 懇 志 金	480,000,000	300,000,000	157,000,000	2万円*24千軒
2. 住 職 懇 志 金	31,500,000	37,500,000	35,000,000	210ヶ寺
3. 特 別 懇 志 金	10,000,000	10,000,000	13,000,000	企業、団体
4. 一 般 懇 志 金	12,000,000	5,000,000	5,000,000	法会懇志
5. 稚 児 参 加 志 納 金	2,500,000	0	0	稚児行列参加料
6. 団 参 志 納 金	0	1,000,000	1,800,000	
2. 宝 物 館 建 設 懇 志 金	(0)	(50,000,000)	(0)	
1. 宝 物 館 建 設 懇 志 金	0	50,000,000	0	
2. 資 産 管 理 収 入	[50,000]	[50,000]	[50,000]	

1. 資 產 運 用 收 入	50,000	50,000	50,000	
1. 諸 利 子	50,000	50,000	50,000	預金利息
3. 雜 收 入	[100,000]	[100,000]	[100,000]	
1. 雜 收 入	(100,000)	(100,000)	(100,000)	
1. 雜 收 入	100,000	100,000	100,000	
4. 繰 入 金 収 入	[0]	[0]	[0]	
1. 繰 入 金 収 入	(0)	(0)	(0)	
1. 繰 入 金 収 入	0	0	0	
5. 前 年 度 繰 越 収 支 差 額	[559,476,263]	[545,014,597]	[576,434,263]	
1. 前 年 度 繰 越 収 支 差 額	(559,476,263)	(545,014,597)	(576,434,263)	
1. 前 年 度 繰 越 収 支 差 額	559,476,263	545,014,597	576,434,263	前年度繰越
合 計	1,095,626,263	948,664,597	788,384,263	

歳出の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	3年度決算見込	備 考
1. 宗 教 活 動 支 出	[134,050,000]	[43,900,000]	[24,510,000]	
1. 門 室 費	(10,350,000)	(0)	(0)	
1. 法 会 御 礼 費	2,500,000	0	0	門室お礼
2. 各 派 御 礼 費	2,850,000	0	0	各派ご招待お礼
3. 維 持 費	5,000,000	0	0	門室衣体ほか
2. 法 会 費	(14,400,000)	(0)	(0)	
1. 恭 敬 費	5,000,000	0	0	立華、盛物、御香その他
2. 法 会 費	3,000,000	0	0	予備知堂、未寺出勤ほか
3. 法 会 関 連 費	3,000,000	0	0	受付、納骨堂臨時
4. 備 人 費	2,400,000	0	0	諸講社手伝い他
5. 諸 雑 費	1,000,000	0	0	山内食事その他
3. 記 念 行 事 費	(103,500,000)	(39,000,000)	(22,800,000)	
1. 山 内 行 事 費	40,000,000	0	0	法会イベント
2. 記 念 品 費	10,000,000	23,000,000	10,000,000	法会記念品

3. 招 待 費	10,000,000	0	0	来賓招待
4. 広 報 費	20,000,000	15,000,000	12,000,000	新聞、チラシ
5. 施 設 費	15,000,000	0	0	御堂設備、舞台
6. 警 備 費	5,000,000	0	0	法会警備
7. 布 教 費	1,000,000	0	0	法会
8. 稚 児 行 列 費	2,500,000	0	0	稚児行列経費
9. 四 天 王 寺 御 聖 忌 費	0	1,000,000	800,000	
4. 管 理 費	(5,800,000)	(4,900,000)	(1,710,000)	
1. 会 議 費	1,000,000	500,000	120,000	諸会議
2. 通 信 費	800,000	500,000	500,000	電話料、郵便料
3. 印 刷 費	2,000,000	1,000,000	500,000	案内状、ポスター
4. 募 財 費	1,000,000	2,000,000	140,000	募財経費
5. 自 動 車 費	400,000	400,000	10,000	ガソリン、定期点検
6. 消 耗 品 費	300,000	200,000	240,000	コピー用紙他
7. 交 際 費	100,000	100,000	0	慶弔費
8. 雑 費	200,000	200,000	200,000	

2. 人 件 費	[24,600,000]	[24,600,000]	[24,600,000]	
1. 給 料 手 当	(24,600,000)	(24,600,000)	(24,600,000)	
1. 諸 給 与	22,000,000	22,000,000	22,000,000	職員給与
2. 通 勤 補 助 費	400,000	400,000	400,000	職員通勤費
3. 福 利 厚 生 費	2,200,000	2,200,000	2,200,000	社会保険料
3. 記 念 事 業 費	[25,000,000]	[28,000,000]	[3,700,000]	
1. 記 念 事 業 費	(25,000,000)	(28,000,000)	(3,700,000)	
1. お 待 ち 受 け 法 会 費	0	3,000,000	3,000,000	
2. 記 念 出 版 費	0	0	0	
3. 教 学 振 興 費	15,000,000	15,000,000	500,000	ネットワーク他
4. 山 内 整 備 費	10,000,000	10,000,000	200,000	山内整備
4. 資 産 取 得 支 出	[524,000,000]	[433,000,000]	[176,098,000]	
1. 宝 物 館 建 設 費	(502,000,000)	(433,000,000)	(174,798,000)	
1. 建 設 工 事 費	475,000,000	400,000,000	152,798,000	躯体3.6億VR2.5千万防犯1千万 追加工事3千万付帯工事5千万
2. 設 計 監 理 費	22,000,000	33,000,000	22,000,000	設計管理料 ㈱kuu・ kan+㈱アスカ総合設計
3. そ の 他 経 費	5,000,000	0	0	法宝物移動

2. 資 産 取 得 支 出	(22,000,000)	(0)	(1,300,000)	
1. 備 品 費	22,000,000	0	1,300,000	館内備品ほか
5. 予 備 費	[10,000,000]	[10,000,000]	[0]	
1. 予 備 費	(10,000,000)	(10,000,000)	(0)	
1. 予 備 費	10,000,000	10,000,000	0	
6. 繰 入 金 支 出	[377,976,263]	[0]	[0]	
1. 繰 入 金 支 出	(377,976,263)	(0)	(0)	
1. 繰 入 金 支 出	377,976,263	0	0	高田派へ繰入
7. 次 年 度 繰 越 収 支 差 額	[0]	[409,164,597]	[559,476,263]	
1. 次 年 度 繰 越 収 支 差 額	(0)	(409,164,597)	(559,476,263)	
1. 次 期 繰 越 金	0	409,164,597	559,476,263	
合 計	1,095,626,263	948,664,597	788,384,263	

議案第4号

令和4年度真宗高田派共済会歳入歳出予算

令和4年6月1日から令和5年5月31日

【収入の部】

(単位：円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異
財 産 収 入	[59,000]	[79,000]	[Δ 20,000]
預 金 利 子	8,000	9,000	Δ 1,000
国 公 債 利 金	51,000	70,000	Δ 19,000
掛 金 収 入	[12,404,000]	[12,404,000]	[0]
寺 院 掛 金	11,900,000	11,900,000	0
本 山 職 員 掛 金	504,000	504,000	0
繰 入 金 収 入	[1,000,000]	[1,000,000]	[0]
高 田 派 回 金	1,000,000	1,000,000	0
償 還 金	1,880,000	1,300,000	580,000
償 還 金	1,880,000	1,300,000	580,000
雑 収 入	[6,000]	[0]	[6,000]
雑 収 入	6,000	0	6,000

前年度繰越金	[14,000,000]	[7,000,000]	[7,000,000]
収入合計	29,349,000	21,783,000	7,566,000

【支出の部】

(単位：円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異
給 付 金	[10,000,000]	[10,000,000]	[0]
祝 金 ・ 見 舞 金	3,000,000	3,000,000	0
香 料	3,000,000	3,000,000	0
慰 勞 金	4,000,000	4,000,000	0
奨 学 金 ・ 奨 励 金	[3,200,000]	[3,200,000]	[0]
奨 学 金	3,000,000	3,000,000	0
奨 励 金	200,000	200,000	0
記 念 品 費	[1,300,000]	[1,300,000]	[0]
記 念 品 費	1,300,000	1,300,000	0
事 務 費	[420,000]	[420,000]	[0]
諸 手 当	370,000	370,000	0
雑 費	50,000	50,000	0
積 立 金	[2,000,000]	[2,000,000]	[0]

国 公 社 債 購 入	2,000,000	2,000,000	0
予 備 費	[12,429,000]	[4,863,000]	[7,566,000]
支 出 合 計	29,349,000	21,783,000	7,566,000

議案第5号

令和4年度 高田派法主褒賞特別会計歳入歳出予算

自 4.6.1
 至 5.5.31
 (単位：円)

歳入の部

科	目	本年度予算額	前年度予算額	増	減	備考
1.	維持資金	500	500		0	
	利子	500	500		0	預金利息
2.	法主褒賞特別基金取崩	500,000	500,000		0	
3.	雑収入	0	0		0	懇志等
4.	繰越金	378,402	342,390		△ 226,380	前年度繰越金
	合計	878,402	842,890		△ 226,380	

歳出の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 委 員 会 費	86,000	86,000	0	
1. 委 員 会 手 当 旅 費	66,000	66,000	0	選考委員手当、 旅費
2. 会 議 費	20,000	20,000	0	選考委員会昼食代
2. 褒 賞 費	640,000	640,000	0	
1. 記 念 品 費	600,000	600,000	0	受賞者記念品
2. 扱 費	40,000	40,000	0	受賞者、招待者 接待費
3. 諸 雑 費	880	880	0	振込手数料
4. 次 期 繰 越 金	151,522	116,010	△ 226,380	次年度繰越金
合 計	878,402	842,890	△ 226,380	

議案第6号

令和4年度 専修寺聖教保存修理特別会計歳入歳出予算

自 4.6.1
至 5.5.31
(単位 円)

歳入の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	内 訳
1. 国 庫 補 助 金	[1,971,000]	[1,971,000]	
国 庫 補 助 金	(1,971,000)	(1,971,000)	
国 庫 補 助 金	1,971,000	1,971,000	
2. 三 重 県 補 助 金	[358,000]	[358,000]	
三 重 県 補 助 金	(358,000)	(358,000)	
三 重 県 補 助 金	358,000	358,000	
3. 津 市 補 助 金	[179,000]	[179,000]	
津 市 補 助 金	(179,000)	(179,000)	
津 市 補 助 金	179,000	179,000	
4. 所 有 者 負 担 金	[1,127,210]	[1,127,210]	
所 有 者 負 担 金	(1,127,210)	(1,127,210)	

所有者負担金	1,127,210	1,127,210	
5. 雑収入	[0]	[0]	
雑収入	(0)	(0)	
雑収入	0	0	
合計	3,635,210	3,635,210	

歳出の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	内 訳
1. 総 事 業 費	[3,536,410]	[3,536,410]	
請 負 費	(3,486,010)	(3,486,010)	
1. 人 件 費	1,568,000	1,568,000	
2. 原 材 料 費	33,100	33,100	
3. 直 接 経 費	1,568,000	1,568,000	
4. 消 費 税	316,910	316,910	
主 たる 事 業 費	(50,400)	(50,400)	補助事業分
1. 報 償 費	35,000	35,000	講師依頼
2. 旅 費	10,000	10,000	
3. 需 用 費	5,400	5,400	
2. そ の 他 の 経 費	[98,800]	[98,800]	
そ の 他 の 経 費	(98,800)	(98,800)	
指 導 監 督 旅 費	68,000	68,000	
需 用 費	30,800	30,800	
合 計	3,635,210	3,635,210	

議案第7号

令和3年度 専修寺歳入歳出補正予算

自 4.6.1
至 5.5.31
(単位 円)

歳入の部

科	目	3年度予算額	補正予算額	補正後予算額	備考
1.	宗教活動収入	[235,650,000]	[17,000,000]	[252,650,000]	
1.	諸進納金	(78,000,000)	(17,000,000)	(95,000,000)	
1.	進納所冥加金	3,000,000	0	3,000,000	
2.	申物冥加金	70,000,000	0	70,000,000	
3.	賽銭	5,000,000	0	5,000,000	
4.	特別懇志金	0	17,000,000	17,000,000	御香儀
2.	納骨堂冥加金	(154,100,000)	(0)	(154,100,000)	
1.	浄華台冥加金	50,000,000	0	50,000,000	
2.	納骨堂加入冥加金	14,000,000	0	14,000,000	
3.	納骨壇移転冥加金	100,000	0	100,000	
4.	納骨壇永年管理冥加金	6,000,000	0	6,000,000	

5. 懇 志 金	5,000,000	0	5,000,000	
6. 恭 敬 冥 加 金	79,000,000	0	79,000,000	
3. 墓 地 冥 加 金	(3,550,000)	(0)	(3,550,000)	
1. 墓 地 管 理 冥 加 金	3,500,000	0	3,500,000	
2. そ の 他 冥 加 金	50,000	0	50,000	
2. 資 産 管 理 収 入	[400,000]	[0]	[400,000]	
1. 資 産 運 用 収 入	(400,000)	(0)	(400,000)	
1. 諸 利 子	400,000	0	400,000	
3. 雑 収 入	[3,000,000]	[0]	[3,000,000]	
1. 雑 収 入	(3,000,000)	(0)	(3,000,000)	
1. 雑 収 入	3,000,000	0	3,000,000	
4. 特 定 資 産 取 崩 収 入	[17,000,000]	[10,000,000]	[27,000,000]	
1. 特 定 資 産 取 崩 収 入	(17,000,000)	(10,000,000)	(27,000,000)	
1. 引 当 金 取 崩 収 入	17,000,000	10,000,000	27,000,000	
5. 前 年 度 繰 越 収 支 差 額	[53,000,000]	[0]	[53,000,000]	

前年度繰越収支差額	(53,000,000)	(0)	(53,000,000)	
前年度繰越収支差額	53,000,000	0	53,000,000	
合 計	309,050,000	27,000,000	336,050,000	

歳出の部

科 目	3年度予算額	補正予算額	補正後予算額	備 考
1. 宗 教 活 動 支 出	[149,100,000]	[26,150,000]	[175,250,000]	
1. 門 室 費	(28,000,000)	(3,500,000)	(31,500,000)	
1. 門 室 費	28,000,000	3,500,000	31,500,000	内事、他派宗主御礼
2. 維 持 費	(23,400,000)	(22,300,000)	(45,700,000)	
1. 護 持 費	7,000,000	6,500,000	13,500,000	墓地費用
2. 恭 敬 費	1,500,000	100,000	1,600,000	
3. 事 務 費	4,000,000	0	4,000,000	
4. 扱 待 遇 費	1,500,000	0	1,500,000	
5. 団 参 清 掃 費	400,000	0	400,000	
6. 協 賛 費	1,000,000	0	1,000,000	
7. 申 物 購 入 費	4,000,000	0	4,000,000	
8. 調 度 費	2,000,000	5,000,000	7,000,000	内敷、戸帳等会場設営
9. 文 化 財 保 存 費	2,000,000	0	2,000,000	

10. 法 要 費	0	5,200,000	5,200,000	行列役御礼、立華等
11. 法 要 接 待 費	0	5,500,000	5,500,000	御香儀返礼品等
3. 管 理 費	(75,100,000)	(350,000)	(75,450,000)	
1. 自 動 車 諸 費	1,000,000	0	1,000,000	
2. 水 道 光 熱 管 理 費	12,000,000	0	12,000,000	
3. 緑 化 管 理 費	3,500,000	0	3,500,000	
4. 通 信 印 刷 費	5,000,000	100,000	5,100,000	返礼品送料等
5. 諸 消 耗 品 費	2,000,000	220,000	2,220,000	消毒液他備品
6. リ 一 ス 料	500,000	0	500,000	
7. 損 害 保 險 料	3,500,000	0	3,500,000	
8. 土 地 借 用 料	800,000	0	800,000	
9. 公 租 公 課	1,300,000	0	1,300,000	
10. 警 備 費	4,000,000	0	4,000,000	
11. 雑 費	1,500,000	30,000	1,530,000	飲料代等
12. 防 火 設 備 費	5,000,000	0	5,000,000	

13. 營繕補修費	35,000,000	0	35,000,000	
4. 納骨堂費	(6,800,000)	(0)	(6,800,000)	
1. 法會費	3,800,000	0	3,800,000	
2. 記念品費	1,500,000	0	1,500,000	
3. 納骨堂清掃費	1,500,000	0	1,500,000	
5. 墓地費	(2,100,000)	(0)	(2,100,000)	
1. 維持管理費	2,000,000	0	2,000,000	
2. 諸雜費	100,000	0	100,000	
6. 交付金	(13,700,000)	(0)	(13,700,000)	
1. 院号交付金	13,000,000	0	13,000,000	
2. 納骨壇加入交付金	700,000	0	700,000	
2. 人件費	[144,100,000]	[850,000]	[144,950,000]	
1. 給料手当	(144,100,000)	(850,000)	(144,950,000)	
1. 諸給与	117,000,000	850,000	117,850,000	特別警備手当等
2. 備人費	1,500,000	0	1,500,000	

3. 日 直 宿 直 費	2,200,000	0	2,200,000	
4. 通 勤 補 助 費	3,400,000	0	3,400,000	
5. 福 利 厚 生 費	20,000,000	0	20,000,000	
3. 繰 入 金 支 出	[7,923,210]	[0]	[7,923,210]	
1. 繰 入 金 支 出	(1,000,000)	(0)	(1,000,000)	
1. 高 田 派 回 金	1,000,000	0	1,000,000	
2. 特 別 会 計 繰 入 金 支 出	(6,923,210)	(0)	(6,923,210)	
1. 専修寺聖教特会繰入金支出	1,127,210	0	1,127,210	
2. 防災設備工事特会繰入金支出	5,796,000	0	5,796,000	
4. 資 産 取 得 支 出	[4,000,000]	[0]	[4,000,000]	
1. 構 築 物 取 得 支 出	(0)	(0)	(0)	
1. 構 築 物 取 得 支 出	0	0	0	
2. 備 品 取 得 支 出	(4,000,000)	(0)	(4,000,000)	
1. 備 品 取 得 支 出	3,000,000	0	3,000,000	
2. ソフトウェア取得支出	1,000,000	0	1,000,000	

5. 特定資産繰入支出	[0]	[0]	[0]	
1. 特定資産繰入支出	(0)	(0)	(0)	
1. 退職給与引当	0	0	0	
2. 減価償却引当	0	0	0	
3. 納骨堂引当	0	0	0	
4. 宝物館建設基金へ	0	0	0	
6. 予備費	[3,000,000]	[0]	[3,000,000]	
予備費	(3,000,000)	(0)	(3,000,000)	
予備費	3,000,000	0	3,000,000	
7. 次年度繰越収支差額	[926,790]	[0]	[926,790]	
次年度繰越収支差額	(926,790)	(0)	(926,790)	
次年度繰越収支差額	926,790	0	926,790	
合計	309,050,000	27,000,000	336,050,000	

承認事項1

専修学園（高田幼稚園）との土地・建物賃貸契約更新について

宗教法人専修寺が所有する土地・建物（下記）を継続して学校法人専修学園（高田幼稚園）貸与すること。

【物件】	土地（境内他）	津市一身田町746番地及び745番地	合計	3,202.00㎡
	建物（大講堂）	津市一身田町745番地		301.20㎡

【目的】 専修学園（高田幼稚園）の園地（土地）・遊戯室（建物）とする。

【期間】 遡って、前契約終了日の翌日（令和4年4月1日）から20年間とする。

承認事項2

関東別院土地売却の方向について

真宗高田派専修寺関東別院が所有する土地・建物（下記）の使用利用目的（水戸分院としての教線拡張）を達成すること及び維持管理が難しくなったことにより売却する方向であること。

【物件】	土地（宅地）	茨城県東茨城郡茨城町大字前田字巾木免1,680番20及び1,680番22	合計	909.80㎡
	建物（店舗）	茨城県東茨城郡茨城町大字前田字巾木免1,680番20		421.66㎡

報 告 事 項 3

ご寺院ご住職 様

特別法要事務局 局長 押小路 蓮円

特別法要募財状況（R4/5/10現在）

(1) 寺院懇志（分納寺院を含む）

寺 院 数	金 額
191	237,044,500

(2) 住職懇志（住職、前住職、副住職、衆徒、坊守）

寺 院 数	金 額
240	70,480,000

(3) 特別懇志（企業、個人）

件 数	金 額
25	22,030,000

(4) 一般懇志（総合案内所受付ほか）

件 数	金 額
97	7,784,000

合 計	337,338,500
令和元年度	12,870,000
令和2年度	117,583,500
令和3年度（～5/10）	206,885,000

5月10日現在の懇志状況を上表の通りご連絡申し上げます。令和元年9月に発足しました特別法要事務局ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大や社会情勢の変化によりご懇志の集まりは低調な状況にあります。

特別法要の厳修まで残すところあと1年となり事務局としましては派内寺院を下記の計画で、県内は1ヶ寺ずつ、県外は別院に集まっていたくなどしてご訪問することにいたしました。ご懇志がお済みのご寺院へはお礼を申し上げ、これからご懇志をいただくご寺院へは重ねてお願いを申し上げたく存じます。また、来年の特別法要期間中は、檀信徒様に一人でも多くお参りいただくため申経（特別読経）を計画しております。ご訪問の際には特別読経の案内チラシを持参しますので何とぞ檀信徒様へのお取り次ぎをよろしくお願い申し上げます。

合 掌

記

寺院訪問計画

令和4年6月から8月 三重県内寺院を1ヶ寺ずつ約400ヶ寺
 令和4年9月から10月 別院等に集まり県外寺院を約200ヶ寺
 日程等詳細は組長を通してご連絡を申し上げます。

特別法要について

1 特別法要

(1) 法会期間

令和5年（2023）年5月21日（日）から5月28日（日）まで8日間

○開山親鸞聖人御誕生850年奉讃法会

○立教開宗800年奉讃法会

○中興真慧上人500年忌奉讃法会

○聖徳太子1400年忌奉讃法会

期間を通し午前11時からの1座法会

(2) テーマ

弥陀のよび声「なもあみだぶつ」を聞いてゆこう

宝物館建設について

1 構造規模

鉄筋コンクリート造り一部木造地上2階
文化財活用（VR）室を新設。

2 延べ面積

852.56㎡

3 工事の現況

裏面写真の通り

4 工期

2023年2月末

5 建築費

8億4千500万円（付帯工事費込み）

6 ご芳名について

ご懇志を賜りましたすべての檀信徒様のお名前を芳名帳に墨書し新宝物館に長く残してまいります。また、2万円以上のご懇志を賜りました檀信徒様につきましては、お名前をご寺院単位で文化財活用室へ向かう廊下壁面に掲出をさせていただきます。この機会にお一人でも多くの皆様のご協力をお願い申し上げます。

7 事務局からのお願い

ご懇志につきましては、令和5（2023）年3月末までをお願いいたします。お名前につきましては令和4（2022）年12月末までにお知らせいただきますようお願いいたします。

宝物館工事の現況 令和4年5月18日現在



道路側からの工事現場



2階床部分のコンクリート打設状況



旧宝物館門扉側からの工事現場全景



クレーンの向こうに文化財活用室

令和3年度における学校法人高田学苑の決算は次のとおりですので、
当学苑寄附行為第42条の規定に基づき公告いたします。

貸借対照表

令和4年3月31日

学校法人 高田学苑
(単位 円)

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	(7,996,493,974)	(7,993,972,017)	(2,521,957)
有 形 固 定 資 産	(6,178,073,461)	(6,472,242,165)	(△ 294,168,704)
土 地	1,025,122,922	1,025,122,922	0
建 物	4,086,611,351	4,292,005,276	△ 205,393,925
構 築 物	691,697,195	760,123,982	△ 68,426,787
教育研究用機器備品	92,247,638	108,537,162	△ 16,289,524
管理用機器備品	6,878,396	64,09,723	468,673
図 書	230,067,566	228,706,748	1,360,818
車 輛	15,528,915	21,416,874	△ 5,887,959
学 苑 林	29,919,478	29,919,478	0

特 定 資 産	(1,797,607,036)	(1,468,768,806)	(328,838,230)
退職給与引当特定資産	263,490,000	262,490,000	1,000,000
施設設備拡充引当特定資産	1,534,117,036	1,206,278,806	327,838,230
そ の 他 の 固 定 資 産	(20,813,477)	(52,961,046)	(△ 32,147,569)
借 地 権	2,257,500	2,257,500	0
電 話 加 入 権	1,285,980	1,285,980	0
施 設 利 用 権	213,570	284,760	△ 71,190
ソ フ ト ウ エ ア	1,035,440	968,470	66,970
有 価 証 券	13,297,674	42,977,136	△ 29,679,462
差 し 入 れ 保 証 金	350,000	350,000	0
長 期 前 払 金	2,373,313	4,837,200	△ 2,463,887
流 動 資 産	(588,469,382)	(570,778,505)	(17,690,877)
現 金 預 金	402,724,770	328,253,006	74,471,764
未 収 入 金	90,443,927	141,723,507	△ 51,279,580
前 払 金	91,212	91,212	0

立 替 金	34,205,239	38,797,180	△ 4,591,941
修学旅行費預り資産	55,236,134	56,256,160	△ 1,020,026
卒業諸費預り資産	5,768,100	5,657,440	110,660
資 産 の 部 合 計	(8,584,963,356)	(8,564,750,522)	(20,212,834)

負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 負 債	(263,346,327)	(248,468,308)	(14,878,019)
退職給与引当金	263,346,327	248,468,308	14,878,019
流 動 負 債	(432,987,401)	(434,391,412)	(△ 1,404,011)
未 払 金	59,112,937	59,096,844	16,093
前 受 金	285,450,940	280,495,000	4,955,940
預 り 金	27,419,290	32,885,968	△ 5,466,678
修学旅行費預り金	55,236,134	56,256,160	△ 1,020,026
卒業諸費預り金	5,768,100	5,657,440	110,660

負債の部合計	(696,333,728)	(682,859,720)	(13,474,008)
--------	----------------	----------------	---------------

純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	(12,888,432,880)	(12,877,399,386)	(11,033,494)
第1号基本金	12,716,432,880	12,705,399,386	11,033,494
第4号基本金	172,000,000	172,000,000	0
繰越収支差額	(△ 4,999,803,252)	(△ 4,995,508,584)	(△ 4,294,668)
翌年度繰越収支差額	△ 4,999,803,252	△ 4,995,508,584	△ 4,294,668
純資産の部合計	(7,888,629,628)	(7,881,890,802)	(6,738,826)
負債及び純資産の部合計	(8,584,963,356)	(8,564,750,522)	(20,212,834)

注記 1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 135,906,640円の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 1,022,197,582円 から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

(2) その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法
移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

該当無し

3. 減価償却額の累計額の合計額	6,577,974,507円
4. 徴収不能引当金の合計額	0円
5. 担保に供されている資産の種類及び額	0円
6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額	14,488,100円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
 第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。
8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

①総括表

(単位：円)

	当年度(令和4年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	473,297,674	487,610,091	14,312,417
(うち満期保有目的の債券)	(200,000,000)	(200,527,900)	(527,900)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	671,511,806	636,435,905	△35,075,901
(うち満期保有目的の債券)	(671,511,806)	(636,435,905)	(△35,075,901)
合 計	1,144,809,480	1,124,045,996	△20,763,484
(うち満期保有目的の債券)	(871,511,806)	(836,963,805)	(△34,548,001)
時価のない有価証券	-		
有 価 証 券 合 計	1,144,809,480		

②明細表

(単位：円)

種 類	当年度（令和4年3月31日）		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	971,511,806	948,799,800	△22,712,006
株 式	3,297,674	15,501,191	12,203,517
投 資 信 託	170,000,000	159,745,005	△10,254,995
貸 付 信 託	-	-	-
そ の 他	-	-	-
合 計	1,144,809,480	1,124,045,996	△20,763,484
時価のない有価証券	-		
有 価 証 券 合 計	1,144,809,480		

興学布教研究大会報告

高田教学に関する研究・布教の振興を目的として、例年、四月二十九日（昭和の日）に開催されている「高田派興学布教研究大会」は、高田派随一のアカデミックな大会であるが、コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年同様に、会場は高田会館ホールを使用し、開始時間を早め、発表後に十分の休憩をはさんでの質疑応答となり、昼食前に終了した。

午前九時十五分より開始。御法主からお言葉をいただき、引き続き、次の講題でそれぞれ三十分の持ち時間による発表であった。

平安末期の往生観に関する一考察

『往生伝』類と

『今昔物語集』巻十五を中心に

満願寺衆徒 青木妙法

中世における専修念仏者の聴聞空間

浄土真宗本願寺派西勝寺住職 山田雅教
願いに心える人生

大野市専福寺住職 金森顕宏

その後の質疑応答では、これも例年通り、出席者より貴重な質問や感想をいただき、教学研究・布教に熱心な方々によって今年の大会を無事に終えることができた。

発表者には後日、発表された内容をまとめていただき、次のようにご報告をいただいた。

平安末期の往生観に関する一考察

『往生伝』類と

『今昔物語集』巻十五を中心に

満願寺衆徒 青木妙法

平安時代は、市聖と呼ばれた空也や『往生要集』（九八五）を著した源信によって浄土信仰が貴族や民衆の中で広まっていった時代である。特に平安時代中期から、人々は盛んに往生を願うように

なった。この時代に生まれたのが『往生伝』類で、往生伝とは、往生したとされているさまざまな階級の人々の往生説話を記したものである。日本最古の往生伝である『日本往生極楽記』は『往生要集』とほぼ同じ頃に成立しており、その約百年後、『続本朝往生伝』、『拾遺往生伝』、『後拾遺往生伝』などが続いて著されている。本発表では、これら『往生伝』類と『日本往生極楽記』を多く引用する『今昔物語集』巻十五の内容を検討し、平安末期の往生観がどのように変遷していったのかを考察した。

まず『往生伝』類と『今昔物語集』巻十五の内容について概説し、その後それぞれの説話をいくつか取り上げながら、『日本往生極楽記』と『続本朝往生伝』、『拾遺往生伝』、『後拾遺往生伝』、『今昔物語集』巻十五との比較を行った。その結果明らかになった内容は次の三点である。

①念仏に関する記述の内ほとんどが観念念仏で、口称念仏はわずかであった『日本往生極楽記』に対し、『続本朝往生伝』、『拾遺往生伝』では口称念

仏が多く見られた。『今昔物語集』巻十五においても口称念仏が多く描かれており、『続本朝往生伝』、『拾遺往生伝』、『今昔物語集』が編纂された時代には口称念仏が主流になっていたのではないかと考えられる。

②『日本往生極楽記』と『拾遺往生伝』はどちらも往生の証明を重視しており、自ら積んだ念仏の功德によって往生を遂げるという往生観が描かれている。しかし、『日本往生極楽記』では諸行往生によって往生できるという往生観が描かれているのに対し、『拾遺往生伝』では臨終時の念仏や数量念仏などによって往生できるという往生観が描かれており、往生観の変化がみられた。

③『日本往生極楽記』の説話が元となった『今昔物語集』巻十五・二十六話には、人に雇われ妻帯生活を送っているながらも日々休むことなく弥陀の名号を唱えていた、という教信の往生が描かれており、その生き様は「不僧不俗」といわれ、後に非僧非俗を貫いた親鸞が理想とした形であるといわれている。『日本往生極楽記』では教信の往生

を見聞した勝如を往生人としているのに対して、『今昔物語集』巻十五では、当時では破戒行為であった生活を営んでいた教信が往生人として取り上げられており、『今昔物語集』巻十五における口称念仏に、後に法然や親鸞によって広められることとなる本願念仏への流れを見ることができ

る。ほぼ成立が同時期である『拾遺往生伝』と『今昔物語集』には善根重視の口称念仏と本願念仏ともとれる口称念仏がどちらも描かれており、この時代が新たな念仏観が誕生する過渡期であったということを明らかにしている。平安末期の人々の往生観の変遷は、そのまま念仏観の変遷といえるものであった。

中世における専修念仏者の聴聞空間

浄土真宗本願寺派西勝寺住職 山田雅教

中世において専修念仏の教えを聞く者たちは、どのような環境のもとで仏法聴聞していたのか、

その聴聞空間について考えてみたい。

高田派本山に所蔵される『親鸞伝絵』では、親鸞聖人が部屋の中で説法して、縁に座る僧二名と、地べたに直接座る僧一名と男女一名ずつがそれを聞いている。本願寺派所蔵の『琳阿本』では、草庵の中で親鸞聖人が説法して、縁の二人、庭の一人が聞いている。大谷派本山所蔵の『弘願本』では、人数が若干増えている。

ここで考えたいのは、人数の多少ではなく、親鸞聖人の説法を聞く人々はいったいどこで聞いているのか、ということである。平松令三先生から、「親鸞聖人は御同朋、御同行の精神だというのに、説法の時、弟子を部屋の中に招き入れるのではなく、部屋の中には親鸞聖人だけがいて、その他は外で聞いている。それはなぜか」と問われたことがある。これが本発表の出発点である。

大谷派本山の『康永本』や千葉県の『照願寺本』では、部屋の中に親鸞聖人と話を聞く人々が描かれている。先ほど見た図様と、どうしてこのような違っているのか。

『親鸞伝絵』の「山伏教化」の段では、親鸞聖人が山伏を自ら出迎える場面があり、御同朋、御同行の精神が感じられる。しかし、いざその山伏が親鸞聖人の弟子になる場面では、親鸞聖人だけが部屋の中にいて、もと山伏は縁に座っている。これはどうしたことなのか。

各種の法然伝絵、覚如上人の『拾遺古徳伝絵』や浄土宗の『法然上人行状絵図』などを見ると、法然上人の吉水草庵での説法場面では、僧侶が圧倒的に多く描かれている。そして、経卓の前にして説教する場面が多く見られる。経卓の上には経論釈の類が置かれていたので、それを基にした講義調の話だったのではないかと推察される。つまり吉水での法然上人の説法は、在家向きの易しい話というよりも、むしろ僧侶向けの話が主流だったのではないかと考えられる。

吉水で在家の人が法然上人の説法を聞けるのは、ある特別な限定された日だけだった可能性がある。このことは、蓮如上人の山科本願寺での事例（門が開く日は限られていて、毎日門徒が参詣

できたわけではなかった）から推測されるところである。

法然伝絵では、室内に法然上人しかいないという図が何箇所もある。また、法然上人は上の間にいて、その教えを聞く人々は下の間、もしくは縁、あるいは庭にいる図もある。法然上人に近い部分が板敷きになっている場面もある。これらは、法然上人と弟子たちとは、明確に区分、区別があるということである。法然上人は勢至菩薩の応現であり、別格の存在で、普通の人ではないという思いが、画面に反映されているのではないかと。

『親鸞伝絵』も同様で、親鸞聖人が稲田の草庵の中に一人だけいて、弟子たちが外にいないという図様は、親鸞聖人はやはりただ人ではないということではないか。親鸞聖人と弟子が同じ部屋にいる場面でも、千葉県の『照願寺本』では、親鸞聖人とその部屋の中で聴いている人たちの間には、板の部分がある。師と弟子の間に厳格な区別があるということ。

これらに対して、法然上人と同じ室内に、何人

かの人描かれている場面もある。こうした場面が成立する背景としては、法然上人が説いた「平等の慈悲」ということが考えられる。法然伝絵には、こうした阿弥陀さまの救済の平等性をベースにしている場面と、師と弟子が厳然と区別されている場面と、こういう二種類が混在しているのである。

これは『親鸞伝絵』の「山伏教化」の場面でも同じ。山伏を出迎える親鸞聖人の姿は平等性により、他方山伏とは部屋の内外を異にする親鸞聖人の姿は、師と弟子の区別が窺える。この二種類が混在しているのが、中世という時代での聴聞空間ではないかと思われる。

最後に、各種法然伝絵において、吉水の草庵での説法と、流罪途中の説法を比較検討すると、吉水では主として僧侶に向けた話が採取され、流罪途中では多くは在家のその土地の人々に向けての説法であり、経卓を前にせず、在家の人々に向けて、より平易な法話が行われていたことが窺われる。

法然上人、あるいは親鸞聖人の説法を聞いていた人たちは、そんな環境の中で聴聞していたのではないかと思われる。

願いに応える人生

大野市専福寺住職 金森顕宏

讚題

「若不生者のちかひゆゑ

信樂まことにときいたり

一念慶喜するひとは

往生かならずさだまりぬ」

阿弥陀様は、私たち凡夫のために、ご本願をお建てくださった。全ての命あるものが、間違いない人生を歩んで欲しい、そして力強く生き抜いてほしいという願いを建ててくださったのが、阿弥陀様である。

『仏説無量寿経』には、阿弥陀様の願いが四十八説かれる。その四十八願の中の第十八番目、十

八願が、阿弥陀様の根本の願い、まことの願いとされ、そのご本願が、私たちにかけられている。

では、なぜこの第十八願が、四十八ある願いのなかで、根本の願いと言われるのか、その理由はいくつかあるが、この十八願の中にだけ、一つのお言葉がある。

四十八願は「設我得仏」、そして「不取正覚」と結ばれているが、この十八願にだけ、「不取正覚」の前に、「若不生者」というお言葉が説かれている。「不取正覚」、もし生まれることがなかったならば、「若不生者」、もし生まれることがなかったならば、これは一体誰が生まれるのかというと、阿弥陀様ではなくこの私である。もしあなたを生まれさせることがなかったなら、阿弥陀も決して仏にはならない。そんな願いがかけ続けられている。阿弥陀様の願いは、ただ一つ、この私を必ず浄土に生まれさせて、仏にしてやりたい。どうか私の願いを聞いてくれよ、受けとってくれよと、私たちに願いをかけ続けてくださっている。その

願いが、私の思いや願いに先立って、かけられている。浄土真宗のご法義は、私の思いや願いをよりどころにするのではなくて、私にかけられている願いをよりどころにしていくなのだ。

私たちのご先祖は、阿弥陀様のことを、親様とお慕いしてきた。親の心が子に通じた時、闇に迷っていた子どもは、闇から光へと歩み出す。

親の心が通じたということ、親の心が確かに受け止められたということ。私たちのご本尊、阿弥陀様は、私たちの真（まこと）の親になろうとして、はたらき続けてくださっている。

この親は、娑婆の親のことではない。なぜなら、娑婆の親は、時として、わが子を見捨てる時がある。生まれてきた時には、大きな深い愛情をもって育てるが、親であり続けることの難しさ。こんな言葉がある。「親になることは易しいが、親であり続けることは難しい。」

今、阿弥陀様は、私のすべてを見抜いて、見通した上で、どうか私の願いを聞いておくれ、必ずあなたを浄土の仏に仕上げてください。そのまま

のあなたを、引き受けたぞ、私に任せておくれ。必ずあなたを救うからと呼んでくださっている。そのお心が、今、右手を上げ左手を下げて、私たちの前にお立ちくださった阿弥陀様のお姿である。南無阿弥陀仏というお念仏の仏となって、この私に、おはたらき続けてくださる、その願いを受けとらせていただく中で、私たちはこの人生を力強く安心して生きぬくことができるのである。

仏様のお姿にもいろんな姿があり、どれも尊いが、浄土真宗のお寺の阿弥陀様は必ずお立姿である。私たちの姿をご覧になった阿弥陀様は、何とかして、救ってやりたい、助けてやりたい、迷いの世界から悟りの世界に歩ませてやりたいと、前かがみになってまで、この私のために、立ち上がってくださいなのである。

そして、どうしてこの私たちを救うことができなのか、と。正信偈の中には、「五劫思惟之摂受」と説かれる、五劫という。信じられない長い時間をかけて、どうしたら救ってやれるだろうか。助けてやれるだろうか。思案を重ねて、お念仏一つで

助けていく方策を明らかにされ、そして、「兆載永劫」といわれるご修行を、この私にかわって成し遂げられて、すでに私たちを救うという願いが成就して、南無阿弥陀仏というお名前の仏様となってくださいました。今大きな広々とした願いが、届いている。そのことを私たちが聞かせていただくということが、聴聞ということである。

南無阿弥陀仏は、阿弥陀様のお名前である。そのお名前を私が称えさせていたでいて、私が聞かせていたでいて、今、阿弥陀様のこの私を必ず救うというお心が、このお念仏の中に確かにこめられていた。南無阿弥陀仏と、阿弥陀様のお名前をお呼びしながら、この人生を、大きな願いに包まれて、安心して、力強く、生き抜いていくということが、私たちの浄土真宗、お念仏の御教えを喜ぶ者の生き方であろう。

なお、今回発表の山田雅教氏は、六月三日（金）に龍谷大学で開催された真宗連合学会第六十八回大会にて同発表題目で発表を終えられた。その大

会での発表持ち時間は二十分で、それに質疑応答を含めて二十五分であった。

(以上、松山智道記)

褒賞授与式 報告

昨年に引き続き本年もコロナウイルスの感染拡大により、五月二十一日の表彰式は中止となりました。

本山褒賞を授賞されました方四名、檀信徒で祖師寿賞を授賞された方は総数百九十六名でした。

今後とも授賞されました皆様の益々のご活躍・ご健康を念じております

責任役員会報告

お待ち受け法会二日目五月二十二日(日)御影堂にて十時より、法主殿御臨席のもと開催されまし

た。

各寺院の責任役員約百五十名参加の中、法主殿のお言葉をいただき、宗務総長挨拶、山政報告・特別法要事務局長より説明を行いました。

特別法要事務局だより

降誕会、お待ち受け法会報告

親鸞聖人の御誕生から八百四十九年目の本年五月二十一日に親鸞聖人降誕会を、また翌五月二十二日に明年の特別法要に向け機運を高めるお待ち受け法会を厳修した。

○五月二十一日 親鸞聖人降誕会

朝九時からは法主殿、法嗣殿がお揃いになり御影堂から御参廟をされた。

十一時半からの親鸞聖人降誕会、勤行に続きお説教は真智海師が行った。

奉賛会は出席者十九名。賜春館での本会終了後御影堂で参拝を行った。

午後からはカウントダウンイベントとして以下の記念行事が行われた。

「高田高校演奏会」

午後一時半より高田高校箏曲部、音楽部、吹奏楽部による演奏と歌また放送部生徒の司会のもと約一時間演奏会が行われた。最初に登場した箏曲部は二十五名による琴の演奏三曲、二番目の音楽部は十一名により「星に願いを」、「チムチムチェリー」を合唱した。最後は吹奏楽部二十三名により吹奏楽演奏を行った。

「津軽三味線」

午後三時半からは津軽三味線奏者駒田早代さんによる歌と演奏会があった。

足太鼓も交えた迫力ある津軽三味線の歌と演奏に聴衆は聞き入っていた。

○五月二十二日 お待ち受け法会

午前十時より責任役員会を開催した。参加責任役員総数百五十名。法主殿のお言葉の後宗務総長があいさつ、藤谷総務より本山現状報告、続いて押小路特別法要事務局長が一年後の特別法要に向けさらなる募財のご協力を依頼した。また記念事業である宝物館建設の現況を説明した。

十一時半よりお待ち受け法会。勤行では参詣者一同が唱和した。続いての特別説教は鑑学の栗原廣海師が行った。

○仏教讃歌の集い

午後一時半より高田幼稚園、高田保育園、コーラス海により仏教讃歌の集いが行われた。御影堂内は参加園児の保護者などで満堂となった。

○雅楽演奏会

両日午後七時半より如来堂正面縁において雅楽団体雅が如来堂の竹灯りの前で雅楽演奏会を開催した。演奏の楽人は六名で約三十分間の演奏であった。

○文化体験イベント

「対面所で抹茶を一服」

二日間で合計四百六十七名、予想以上の参加者となった。

「蓮のねりきりづくり体験」

春乃舎に協力していただき蓮のねりきりづくり体験を行った。総数百九十七名の参加者であった。

「念珠づくり体験」

二十一日三十二名、二十二日五十名の方が参加し盛況であった。

「記念印帳づくり体験」

村田紙店に依頼し二十一日は八名、二十二日は三十九名の参加であった。

「伊勢木綿 着付け体験」

岡本屋に依頼し伊勢木綿を使った着付け体験を行った。二十一日六名、二十二日十名が参加した。

「専修寺マルシェ・キッチンカー」

専修寺マルシェを蓮心庵前、キッチンカーを高田会館前に行った。

「プロジェクトマップ」

（株）一旗の協力のもとプロジェクトマップングを行った。七分間の動画コンテンツに三分のインターバルを繰り返して二日間とも七千人ほどの来山者であった。

「ストリートピアノ」

幼稚園児〜八十歳代まで老若男女を問わずの参加があった。YouTubeやTwitter等SNS系への投稿・拡散も多く多くの方に知ってもらった。きっかけができた。

「竹灯り」

（株）カナエリアが如来堂前で竹灯りを行った。幻想的な空間を醸し出し専修寺のロゴや蓮を光で浮かび上がらせる工夫もされていた。

まとめ

新型コロナウイルス感染症対策を行いながら多くの参詣者を迎え入れることができた。境内各所の文化体験イベントは賑わいを見せ盛況であった。

た。カウントダウンの良いスタートが切れたので
参詣者の事故防止、安全対策に万全を期し宗門系
列の学校との連携をさらに深めたうえで来年の特
別法要をお迎えたい。

第九十六回 佛教文化講座

日程

【第一日】八月一日（月）

法主殿御親講

【第二日】八月二日（火）

講師 大谷大学教授 三木 彰円

講題 『教行信証』の願い

【第三日】八月三日（水）

講師 元同朋大学特任教授・民俗学者

蒲池 勢至

講題 現代葬儀と真宗門徒の生死観

―亡き人のゆくえ―

【第四日】八月四日（木）

講師 東京大学名誉教授・

（公財）仏教伝道協会会長 木村 清孝

講題 安穩の世に向かう道

【第五日】八月五日（金）

講師 真宗高田派鑑学 栗原 廣海

講題 親鸞聖人の回向論

二〇二二年

教師検定講習Ⅰ受講要項

教師資格を取得するには原則教師検定講習Ⅰ及
び講習Ⅱの全日程への出席が審査の前提となりま
したのでご注意ください。

ただし、真宗高田派宗制第二百十三条に該当す

宗門のお知らせ

る者（真宗学、真宗史、仏教学、仏教史の学力を有すると認定された者）は教師検定講習Ⅰが免除となります。

一、講習期間 八月二十二日（月）

～二十六日（金） 五日間

二、会場 高田短期大学

三、提出書類

①教師検定講習Ⅰ受講願（本山所定の用紙）

四、申込み方法

必要事項を記入の上、宗務院へ直接お持ちいただくか、郵送又はFAXにてお申し込み下さい。

五、締切り 七月二十九日（必着）

六、講習Ⅰ受講料 無料

七、講習内容

高田短期大学仏教教育センター主催の仏教基礎講座（高田本山寄付講座）に準じる。

講習の詳細につきましては、受講申込締切後郵送にて連絡いたします。

八、その他

・高田短期大学での科目等履修生制度により定められた科目の単位取得者は講習Ⅰでの試験が免除されます。

・最終日に試験を行います。試験に合格された方には「単位修得証明書」を発行します。この証明書が、教師検定講習Ⅱの受講資格となります。

・各科目、一回でも欠席すると、その科目は不合格となります。不合格の場合、翌年以降、該当科目を再受講していただきます。
・宿泊希望の方は、各自で手配して下さい。
会場までは津駅および高田本山大駐車場より送迎バスを運行します。
詳しくはお問い合わせ下さい。

お問合せは本山宗務院教学部まで

電話 ○五九一二三二一四一七

FAX ○五九一二三二一四一四

kyo-gaku@senjuji.or.jp

令和四年度
高田短期大学仏教教育研究センター
仏教基礎講座（高田本山寄附講座）
実施要項

高田短期大学仏教教育研究センターでは、仏教基礎講座（高田本山寄附講座）を、八月に開催いたします。多くの皆様のご受講をお待ちしています。

また、本講座は高田本山の教師検定講習Ⅰを兼ねております。

講座の日程

・ 期間 八月二十二日（月）

～二十六日（金）五日間

・ 場所 高田短期大学 教室

・ 対象 寺族および一般

・ 受講料 無料

・ テキスト 実費負担

・ 時間 九時～十七時五十分

（高田短期大学の授業時間に準じる）

*最終日は講義と試験になります。

各講座担当者と内容

仏教学

講師 師・栗原 廣海

（仏教教育研究センター研究員）

講義内容… 釈尊の生涯を概観し、二十九歳で出家された釈尊が何を求められたのか、六年の修行の後ブツダとなって私たちに何を教えようと考えたのかを学ぶことを通して、仏教とは何か、仏教を学ぶ意義とは何かについて考えたいと思います。

真宗学

講師 師・松山 智道

（仏教教育研究センター長、

高田短期大学特任講師）

講義内容…親鸞聖人の本願他力の思想について学びます。また、聖人は「智慧光のちからより本師源空あらわれて 浄土真宗をひらきつつ選擇本願述べたもう」と明かしておられますように、聖人の思想は七高僧の教えが背景となっています。したがって、七高僧の教えを併せ学びながら、「真宗の救い」の内容を吟味したいと思います。

仏教史

講 師…金信 昌樹

(仏教教育研究センター研究員、

高田短期大学非常勤講師)

講義内容…仏陀釈尊によって開かれた仏教は、中国に伝わり歴史的展開を見せ、その仏教が朝鮮へそして朝鮮を経由して日本に伝わった。その後中国から直接日本に伝えられ、歴史的展開を見せて今日に至っています。日本においてどの様に仏教が展開したのかその歴史を学び、その問題点を考えたいと思います。

真宗史

講 師…清水谷 正尊

(仏教教育研究センター研究員、

高田短期大学非常勤講師)

講義内容…親鸞聖人が、真仏上人や顕智上人に直接教えられたみ教えは、その後高田派の歴代上人を始め、念仏を喜ばれた人々によって連綿と伝えられ、今日の私たちにまで届けられました。その念仏者たちの長い歴史を具体的に学ぶことで、私たちがみ教えに遇わせていただいたことの意味を考えてみたいと思います。

高田の歴史と法宝物

講 師…新 光晴

(仏教教育研究センター研究員、

教学院院長)

講義内容…高田専修寺の法宝物は、宗祖親鸞聖人直筆の名号本尊や聖教と、関東下野の高田門徒を率いた真仏・顕智両上人の書写本を根幹としてあります。これら鎌倉時代中・後期に醸成された原

資料を用いて初期真宗の概要を示すと共に、これ以後の高田派における真宗史の展開を同時代の資料に依って解説したいと思えます。

申し込み方法

教師検定講習Ⅰとして受講される方

本山指定の受講要項に準じて下さい。

一般受講の方（既に教師資格をお持ちの方）

科目を選択して受講することができます。

受講科目の三分の二以上を出席いただきます。中には「受講証明書」を発行します。また、受講科目の全てに出席いただき、試験に合格された方には、該当科目の「単位修得証明書」を発行します。

「単位修得証明書」が発行された科目は、今後、高田派教師検定の審査を受けられる場合に、該当科目の試験が免除となる場合があります。

受付期間…七月一日（金）～七月二十九日（金）
申込方法…ハガキ、FAX、メール

申込内容…氏名（ふりがな）、性別、年齢、住所、
電話番号
受講科目名（科目を選択して
受講の方のみ記入）

昼食の希望（二十二日～二十六日）

ご応募いただいた内容は、個人情報保護のため完全に保管し、本講座以外の目的には使用いたしません。

申込先…〒五二四一〇一一五

三重県津市一身田豊野一九五番地

高田短期大学仏教教育研究センター

基礎講座係

TEL 〇五九一二三二一〇（代表）

FAX 〇五九一三三二一六三二七

E-mail

b-center@takada-jc.ac.jp

テキスト等の詳細につきましては
お問い合わせ下さい。



第二十五回

現代と仏法を考える集い

〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇

テーマ 高田派寺院の現状と未来を読み解く

二〇二〇年度寺院アンケートを手掛かりとして、今やらなければならぬことはなにか

講師 木村共宏 師

浄土真宗本願寺派 報恩寺 衆徒

日時 令和四年八月二十六日（金）

午後一時半から四時まで

場所 高田会館 ホール

※ 事前申し込み 五十人まで

参加申し込み方法

官製はがきの場合

- ① お名前
- ② ご住所
- ③ ご寺院又は所属寺院名
- ④ 連絡先電話番号

①④を記載の上、七月三十一日までに教學院までご送付ください。

〒五一四―〇一一四

津市一身田町二八一九番地

高田本山専修寺 教學院

第二部会「現代と仏法を考える集い」担当宛

メールの場合

件名を「現代と仏法を考える集い」とし本文に

- ① お名前
- ② ご住所
- ③ ご寺院又は所属寺院名

④ 連絡先電話番号
を記載の上、七月三十一日（日）までに、ご送信
ください。

Email : kyougaku20220826@gmail.com

※ 新型コロナウイルスの状況によっては中止する場合も
ございます。開催の有無を本山ホームページに掲
載いたしますので、予めご確認の上ご参加下さい。

本山行事予定

（七月・八月）

八月一日～五日
八月十四日～十六日

仏教文化講座
歓喜会

下付金のお知らせ

平成二十八年度分院号下付金、及び
納骨壇加入下付金を専修寺正味財産に
計上いたしました。

（令和四年五月三十一日付）

院号冥加金、及び納骨壇加入冥加金
の下付金は納入された年度から、五
年を経過したものは、専修寺正味財産
に計上されるため、交付出来ませんの
でご注意下さい。

詳しくは宗務院財務課までお尋ね下
さい。

真宗高田派共済会のご案内

● 全寺院対象の共済制度 ●
真宗高田派共済会運営規程による給付金制度

○災害見舞金制度

- ・ 本堂全焼及び全壊 100万円
 - ・ 本堂半焼及び半壊 60万円
 - ・ 庫裏全焼及び全壊 60万円
- ※災害を証明する書類等が必要です

○祝金制度

- ・ 本堂新築及び改築 60万円
 - ・ 本堂を除く境内建物の新築及び改築 10万円
- ※高田派代表役員の新築・改築承認書と工事契約書の写しが必要です。尚、工事費が壺千万円以上の場合となります。

○住職死亡の場合

- 在任期間により給付金が異なります
- ・ 住職在任 40年以上 50万円
 - ・ 住職在任 30年以上40年未満 40万円
 - ・ 住職在任 20年以上30年未満 30万円
 - ・ 住職在任 10年以上20年未満 20万円
 - ・ 住職在任 10年未満 10万円

○住職退職の場合

上記死亡の場合を適用する

給付及び申請のお問い合わせは、下記の共済会担当までお尋ねください。

〒514-0114

三重県津市一身田町2819番地

真宗高田派宗務院内

真宗高田派共済会

電話 059-232-4171

FAX 059-232-1414

人権擁護啓発活動重点項目

- 一、国際時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 一、子どもの人権を守ろう。
- 一、高齢者の人権を尊重しよう。
- 一、病気・部落などによる差別をなくそう。
- 一、障害者の完全参加と平等を実現しよう。

「三重県人権教育基本方針」より抜粋

令和四年六月二十五日印刷
令和四年六月二十五日発行

三重県津市一身田町二八一九番地
電話（〇五九）二三三―四一七一
<http://www.senjuji.or.jp>

真宗高田派本山専修寺

発行所 宗務院

振替〇〇二五〇―〇一五二九四番

三重県津市一身田町七六五番地
印刷所 相和印刷所

電話（〇五九）二三三―二〇七〇